

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月19日更新

事務事業名		下水道使用料金決定収納等事務				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input checked="" type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	水道局	課長名	久留 伸二	
	施策	10	水環境の保全			所属課	上下水道課	担当者名	主査 福岡 綾	
	基本事業	28	水質の浄化			所属班	庶務料金班	(内線)	1164	
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	下水道法、下水道条例		成果優先度評価結果	
	下水	1	1	1	10223				コスト削減優先度評価結果	
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	下水道使用料の決定収納について、水道事業会計に事務(納付書作成、徴収、検針等)を委託する。市営上水道以外の水を使用する場合に必要な事務(下水道量水器取替、検定、量水器購入) 栄温泉団地メーター検針を栄温泉団地管理組合へ委託する(30円/件) 流域及び特環下水道使用料金徴収を促進するため徴収事務を委託する合併前の旧団地にて、下水道事業を開始すると同時に下水道施設の整備及び維持管理を行うため、また、その財源確保のために開始した。5年前と比べると、財政事情の更なる悪化に伴い、財源の確保も厳しくなっており、合併後、住民負担の公平を保つため下水道使用料を統一したが、下水道財政の健全化を図るため使用料の値上げが必要。
(開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	下水道使用料算定に伴う検針及び調定、納付書及び督促状・催告状の作成・発送、収納・個別徴収、過誤納付の通知、支払(還付) 水道事業会計に事務を委託し負担割合により負担金支出、徴収及び検針契約事務及び報償費の算定、支払い事務等
【主な予算費目】	報償費、備品購入費、負担金補助及び交付金、償還金利子及び割引料(還付金)
【意見や要望】	使用料の未納額がそのまま、財源の不足に繋がり、議会等より徴収率の更なる向上を要望されている。使用者から、クレジット払いを可能にして欲しいとの要望がある。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
・下水道使用料算定に伴う検針、賦課(決定) 収納、負担金支出事務等・下水道量水器の管理、検針、データ作成、電算処理事務等	・下水道使用料算定に伴う検針、賦課(決定) 収納、負担金支出事務等・下水道量水器の管理、検針、データ作成、電算処理事務等
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア 調定額(現年度)	千円 下水道事務手数料等負担金の増
イ 調定額(過年度)	千円
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
・下水道使用者	→ ア 下水道使用者数(世帯) 世帯
	イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
・下水道使用料の適正な算定と確実な収納を図る	→ ア 収納率(現年度) %
	イ 収納率(過年度) %
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠	
下水道使用量の適正な算定と確実な収納を図ることが必要であり、前年を下回らない収納率を設定。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ~ 年度  (期間限定複数年度のみ記載) 0
① 活動指標	ア	千円	477,382	553,682	560,736	563,964	585,500	590,000	600,000	
	イ	千円	7,032	6,701	3,000	7,319	3,000	3,000	3,000	
② 対象指標	ア	世帯	17,250	17,575	17,490	18,025	17,610	17,730	17,730	
	イ									
③ 成果指標	ア	%	99.5	99.5	99.5	99.1	99.5	99.5	99.5	
	イ	%	30	26	50	30.71	50	50	50	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	16,419	18,125	19,290	17,221	22,419	22,419	22,419
		繰入金	千円							
	一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	16,419	18,125	19,290	17,221	22,419	22,419	22,419	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	18,484	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	12	12	12	6	6	6	6	
	延べ業務時間	時間	1,470	1,330	1,300	959	1,000	1,000	1,000	
	(B) 人件費計	千円	5,880	5,293	5,174	3,951	4,120	4,120	4,120	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	22,299	23,418	24,464	21,172	26,539	26,539	26,539	

事務事業名	下水道使用料金決定収納等事務	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------------	-----	-----	-----	-------

## 2 評価の部 (SEE)

\*原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 水道事業と連携して滞納者対策を強化し、収納率向上に努める。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 上水道との納付書一元化等により使用料の徴収率は100%に近い数字ではあるが、さらに収納率をあげるため、口座振替やコンビニ収納（19年度導入）の推進、また民間委託若しくは、専門機構を設けるなど向上の余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 徴収専門機構を設けて、他租税等徴収事務と共同運営を図る。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 専門機構の設置等による事務事業効率の改善及び経費共有化による削減。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 専門機構の設置等による事業効率の改善及び経費共有化による削減。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 下水道使用者に対するその使用量に応じた賦課であるため、公正である。また、旧町ごとに使用料体系が異なっていた使用料を20年度（H20.10.1）に統一した。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 水道料金を含めた使用料収納事務で民間委託について再検討を続ける必要がある。

## 3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

21年度において、収納事務の民間委託調査を行ったが、費用対効果が上がらず導入を見合わせることにした。今後も、効果的、有効的な方策を模索して、最善の策を検討する。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						